種々の評判して居ますがアレハ……僕が勸めて女優に仕たが惡かつたとの玉ふか、成程すゑハ貴君の細君と定まつた人が女優に成つたと云ふので貴君の榮譽をも穢したらう又乙女さんも芝居に出たと云ふので惡評をも取つたらうイカニモ夫に違ひ無いが其の榮譽も其惡評も誰が與へ誰が豫つたと思召す即ち君が憂世の素面に書た亡者連中でハ御座らぬか既に其連中を蔑んじて社會の害物と賤しめて居ながら却て其連中の爲に惡評を得たるを憂ふるとハ平仄の合ハぬ話し近頃貴君にも似合ハぬ樣に思ハるヽ子……、ムー貴君ハ榮譽を穢されたとハ思ハぬが乙女さんは氣の毒だと、ソリヤ益々分らぬ說ぢや其榮譽が貴君を利するに足らずば其惡評も亦乙女さんを害するに足らぬハ勿論の事サ、君の意ハ乙女さんが女性だけに世間の批判をうくるが心苦からうと云ふので有らうが安心し玉へ、失敬ながら乙女さんハ女流の豪傑その膽略のある事ハ恐らく貴君のうへであらうぜ、世間の阿呆

が善く云ハうが惡く言はうが勝手に言はせて置け今に正札の直段を見せて遣るが其時に肝を潰すなと云はぬ計りの心底中々恐れ入つた女丈夫て御座る、斯る女丈夫の乙女さんを案ずるには及ばぬから貴君どふが乙女さんに案じさせぬ樣に仕て呉たまへ、今日堂々たる大博士が揃つて文學の改良を謀つて居るが其改良が出來ぬ内に乙女さんの獨力で演劇の改良が著るく見えるで御座らうから油斷して乙女さんに笑はれ玉ふな

○第四十六回

（いもせ川）合　また火を見ると。ねむるかと聲はしたなく。のゝしりて。まゝ子つめりと。あとつけし子はやすかたの。やすからぬ。おやはうらにて。ちのなみだ。合　たがふしつけて。よをうとふ。さてこそうけれやすかたと舞をハつて扇を置き會釋したれば手を拍いて譽りやしたる聲ハ暫し鳴も止まざりけり。抑も此の妹背川ハ其昔名を轟かせし俳優水木辰之助が作ふて山本喜市に誂へ調を付させ自から振を附けたる名譽の舞なるに唱歌のみ存して舞の久しく絶たるを惜み今度乙女が新手を案じて再興したるをば今宵ハ鼻髭長者の所望によつて舞たるなり長者ハ乙女をおのが座の側ま招き、イヤ雲野さん實に舞の手にハ恐入たぜにくやおとこのあてことをきいてゐるさの。しやうじより。もれいづる月はきゆれど。むねのやみと云ふ所でポンと扇を捨てヂット向ふの方を睨んだ眼つき色氣があつて凄味があつて思はずゾッと仕たよ．サア一

ッ上げやうと杯をさし頻ふ乙女を饗しけるが追々に酒も廻り話も積つて長者ハ例の金もち風を吹せながら側に居たるお盆（若婆藝者の綽名）に向ひ、エーお欲雲野太夫も是位な藝を持て居ながらア、云ふ体で暮して居るとハ詰らぬぢや無いか……ソリヤ芝居でも給金が取れるだらう又お座敷も有るだらうが高が知れたものサ誰か後楯になつてまつかり世話する人が無くてハ往まいぜ……立派な官員さんや位の高ひ華族さんも結搆だらうが顔が宜なるばかりで肝腎の實入ハ思ふ程で無からう、ツウ云ふと何だか味噌を上る様だがソコに成と商人で無つちや頼みに成るまいと思ふよ……ソリヤさうとも魚心あれば水心で太夫の方でもおれが世話ふなつて身を任せたいと云へば憚ながら乃公も鼻髭だ跡へハ引かぬ、チャンと家を立派に持たせ一切引受けて何一ッ不足ない様に世話して遣るナ併し無理にソウ仕たいでも無いが……と乙に聞せた持せ振乙女ハ其と覺り扨ハ此奴が今夜この別

雅に招き舞の所望をなしたるも矢はり我を口説かん爲でありしよな左ばかり我を見あなどつたる事の面憎さよとは思へども顔にも出さず例の如く柳に風と接ひたるにお盆は十八番の相槌を打ち……ホンに旦那の仰やる通りツウ成らうものなら太夫さんの出世は强氣であらうナントお願ひ申してお世話に成つてはどふちやと打付に言出したれば乙女は笑ひに紛らして、ソリヤ誠に有り難う御座いますコウして舞臺に出て居ますれば旦那がたの御贔屓を受け無くつちや成りませんが併し家内の事や身の上の事は都て夢野さんが信切にして下さいますから心丈夫それに座主が私に過る位の給金を出して呉ますので先づ不自由も致しませぬナニ贅澤さへ仕ませんけりや餘り過る程で別に是と云ふ入用も懸りませんから……と早くも關を据たれば長者は少し癪に障つたと見えて下墨たる体にて苦笑して、ハア夢野が萬端世話して呉るとソリヤ結搆だ子、あの夢野と云ふは小説を書たり脚本を作つたりする小梅の變人の事だナ、成ほど彼漢は相應に世間も廣くて學問もゑらいに出て芝居でも用ゐらるゝさうだから藝の上や何かは世話も出來やうが金錢の事は又格別、智惠にも分別にも往かぬが金サ、口廣い云ひ分だがサアと云ふ時に差掛つて掇てコレ〳〵に付き何分お賴み申すと云つて見な不斷コウと思つた人も當にならぬが世間の習まして夢野などゝ來たら可愛さうに無い袖は振れず幾ら矢竹に思つても仕やう模やうの無いは知れ切つた事だ子余はまた夫と逢つて常には隨分締り店でもツウ云ふ時になつて宜しい承知と受合たら屹度片肌ぬいで世話をするには後へは引ぬ男、親船に乘たも同前たしかなものサ、名を取らうより得を取れと昔から云ふ通り何でも人間は得を取る考を仕なくつちや損だ、エヽ太夫おまへは知るまいがお欲なんずは好く知つて居たアノ○○等を見な十年前には無暗に煽動られた所から藝人の癖に西洋服を着たり鬚を生したりして官員さ

ん達の交際に入りヤレ僕だの君だのと官員詞を遣つて丸で奏任官にでも成つた氣になりナンノ困つたとて案じるには及ばぬ今にどうか仕て下さると噂話しの世辭を恃みに思ひ商人などは相手に成らぬと威張て居たが二三年たつと礑たり行詰つて後にも先にも往けなくなりサアどふか仕て下さいましとお頼み申すと先樣では原より請合た事では無し乃公に頼んだつてどふなるものかと木で鼻を括つた挨拶に七轉八倒の苦しみをしたが好い手本だらうぜと飽まで金滿を鼻に掛け人を譖する惡臺詞に流石の乙女も堪り兼ねソリヤ夢野さんは貧乏で貴下は金持で御座いませうが夢野さんは貴下の眞似が出來ぬ通に又貴下の及ばぬ所が夢野さんにも御座いますから一涯には申されまいかと存じます夫に私共はコウ藝で身を立て居ますれば金持の色敵よりは却て金なしの實役が頼もしい樣に思はれますと思ひ切て一本さしたれば鼻髭はいと不興げにぞ見えたりける

はや黃昏ちかきに堤の上を二人引の車で急ぎ來るを見て夢野はオットト危いと云ひつゝ傍に避けながら車の上を見ればオヤ先生。ヤー乙女さんか何所へお出だ只今鼻髭さんのお寮から戻る所で御座います。ソウか何れ近日………と會釋して別れんとするに乙女は呼び止め………先生妾は少し貴君にお話し申たい事が………。ハヽア左樣かソンなら余は是から一寸用達をして直に座へ出向かうと約束して立別れしが夢野は乙女が顏色の少しく常に變つて見えたるを心許なく思ひたれど用事もそこ〳〵に濟して東京座に赴き樂屋に入つて乙女に遇ひたるに乙女は今日鼻髭に招かれて箇樣〻〻の次第と物語り彼の長者が遂に夢野が事までも下墨たるを腹立て述懷に及びたれば夢野は思はず笑ひ出し…………太夫また口說かれたナ何奴根と云ひ鼻髭と云ひ呆れた阿房どもではある何に色慾の餓鬼でも少しは眼が見えさうなものに………二度ある事は三度あると云ふからマダ〳〵幾度もそんな目に

遇れうがナンノお前さんが心を正しくして居さへすれば些も恐るゝにハ及バない程よく接らつて往かぬ時には耻を掻せても更に差支なしサ……併しツウ腹が立ならヨシ〳〵余が滑稽の二番目を書て遣らう長者が女俳優を口説て耻を掻く處をツックリ見せやうよと言へバ乙女ハ大に喜び、ソリヤ嬉しう御座いますがソウしたら彼人たちが愈〳〵先生を憎んてヒヨツトすると仇をするかも知れませんから……。イヤ夫や大丈夫だ彼等の遺恨が怖くつちや烏有仙史ハ今日まで生て居る事は出來まいぜハヽヽヽ

〇第四十七回

茲にまた思はざる事の出來て俄に局面を變じたるぞ面白ろき彼の慢心黨と死勇黨の間にハ兼てより折合を附け連合の勢を以て反對に立ち今年こそは例の選擧改正案を議院に持出して現内閣と雌雄を決すべけれと企て愈々近日その擧に及ぶべしと手筈を定めたるに現内閣の法主黨も亦いかで斯る反對の謀略を不問に置べき風潮黨變心黨らの外の諸黨を味方に附けて是に當るの策を運らし内閣より提出したる税法改革議案を以て内閣問題となし此案にして議院に敗を取らば内閣は斷然議院を解散して輿論の如何を試るべしと決心したり。此の目覺しき政治の爭に兩黨いつれが勝を取べき所謂龍虎の鬪なれバ當面の政治家ハ各々肝膽を碎き工夫を凝し斯や打て掛らん兎や防いで見んと相談に他事なかりしが双方ともに懸念したるハ機會黨と中立黨の去就にぞある中立黨ハ上院にてハ巣鴨伯爵の諸人下院にてハ音

無温藏、中尾行平を初として纔に十人ばかりの少數に過ざれば何方へ附ても左までの大事とハ思はれず殊に是までの往掛を見るふ先づ現内閣に一味すべき樣子なるが恐るべきは機會黨なり。機會黨は上院には勢力なけれども下院にてハ其首領には風並看之助、相從ふ面々には旗色變、久留里轉吉、猫野眞奈古、三佐保梨次郎、紫陽䑓を先として其勢都合六十四人と注したれば此黨が加擔の如何に由て全局の勝敗は定まるべう見へたりける。去れば平日は親しからぬ間柄なるに今は此の機會黨を引入るゝを專要なりとあつて各々欵を送り好を通し我方に同意せよ何事にまれ望の如く承知すべしと一方より申入るればイヤ〳〵此方ふ一味あれ恩賞ハ莫大なるべしと申込み雙方の引張凧にて機會黨の持る事は新駒が女御の島ふ漂着しても是程には非るべしと思はれたり東京新報の附會辯司、矢鱈搔也等ハ福徳の三年目ツレ此期を外すなと彼方此方へ駈廻り爰を先途と稼げとも機會黨の首領と仰がれたる風並ハ平素にハ似ず故に重々と搆へ何れ黨と貴黨の御趣意を承はり一同に相談の上で御挨拶に及ぶべしと敵とも味方とも付ざる樣子を見せ買手の方で相場を競上るを待受たるハ流石に一方の大將なり然るに反對の買直段や高かりけん議決の二三日前に至つて風並ハ一味同心の決答を反對に送つて牒し合せたりければ憫むべし現内閣ハ税法改革案にて遂に失敗を議院に取つたりけり

現内閣ハ政治世界にて去るものありと聞えたる人々の寄合なれば此の失敗ハ素より覺悟の事なり今更に驚くべきに非ずいざや豫定の如く議院解散を命ぜらるべしとあつて總理ハ議院に向つて解散の旨を公達し同時に議員改選の事を勅令せしめたり議院政治の例とて此場合に至れば諸方の紛擾ハ一方ならず、内閣にてハ改選の上にて味方少數と定まらば尋常に引去るべし唯今より心用意せよ其場に臨んで狼狽廻り敵ふな笑ハれそと事務引繼に差支なき樣に手廻しを爲し置き外

に向つてハ改選に味方多數の手段を運らせよと首領の面々くハ眼を圓くして指揮したり反對黨の方にても同しく其通り愈々勝利と相成る上ハ新内閣ハ誰々にて組織せん兼て調べ置たる秘密官員録を修正せよ夫に付ても國々く在々くへ遊説を出して味方を募れと魂膽を盡して働きたり個樣に雙方とも晴の爭の用意なれば東京本部と地方部との間には電信郵便の往復ハ引も切らず、一手の頭分ハ受持の地方に出張し首領の面々くハ八方に馳廻つて人心を籠絡する計略を成し、彼地で集會すれば此方でも演説し、此方で決議すれば彼方でも評議する行列を組で表彰すれば隊伍を立て決意を示す、其騒ハ恰も盆と正月が一所に來て葬送と婚禮が落合てお祭が其間に挾まつたる如き景况なり新聞紙ハ各々自黨の得意を鳴し、雜誌ハ味方の都合を主張し、詰る所が我黨に任すれば天下太平國家安穩だが敵黨に任する時ハ忽に亂世に成つて飢饉、洪水、地震、海嘯、六種の傳染病に七難、八苦、九厄、十災、が同時に起つて

十二の禍が直に出現するぞと互に吹立て煽り立る程に氣の毒なるハ地方の選擧人どちらが善やら惡いやら途方に迷つて分別ハ付ず、念佛を唱へて西方淨土へ往けると思つたら此方てハ無間地獄に落ると云ハつしやるし、題目を云つても自力でハ追付かぬと聞て居たら彼方でハ大丈夫だ成佛が出來ると受合つしやるし、扨々何方へ仕たら好からうと思案に餘り圍爐裏の側で婆さまに相談するも同し思をなしたるも至極尤なる次第なり

却説夢野ハ其前より早くも此機を察し熟々考へけるハ我この六七年の間かく世に反て心ならずも文筆の業ふ從事して歲月を送つたるハ何の爲ぞ時機もあらば再たび世に出て思ふ所を達せんが爲ならずや其時機ハ只今到來して我が目前にあり然るを捨て顧みずば何れの日を俟て草の庵を出づべきぞいで／＼今度ハ議員に選ばれ夢野實が實の技倆を顯ハさんと志を定めたり先日清水に遇たる時にチラリと云

つたる一言ハ即ち此意を洩したりとハ後にて思ひ當つたり。原來交際の廣き夢野が事なれば○○選擧區内ふ住居する人々ハ夢野が今度ハ選ふ應ずる心ありと聞き夫ハ至極結構なり是非とも我等が代議士になつて玉はれよ、實ハ議員選擧の度ごとに諸政黨の演説師が交る〳〵候補の賣附に來て政治の説法夫にハ各々世話人があつて忙しい中を無理に引出され誠に閉口仕る貴君が出て下されバ何より以て忝ない何分お頼申上ますと達ての依頼。然らば承知仕つたがお前さん方ハ此の區内での年寄株それが揃つて余にと仰しやる上ハ選擧の事に付て別に氣遣も御座るまいが選擧の投票に掛る前に申合が無くてハ適ハぬ其等の手續ハどふなつて居ます。イヤ其等の事ハ私共が引受て萬事不都合ない樣に取計ひます程に先生にハ決して御苦勞を掛ませぬ、併し慢心黨の方でも當區内から隣區に掛けてハ前〳〵より手を入れ既に此間まで出て居た議員ハ即ち慢心黨で御座いますで彼方でハ大方か

の漢を再選する積で御座いませうがナニ貴君が出て遣ると仰しやれバソリヤ區内のものハ皆大丈夫貴君に入札致しますに違ひハ御座いません。ソウ云ふ通りに往けば好いが…………往ますとも〳〵、だが先生議員にお成なすつたら眞逆に此のお宅では…………惡いと云ふのか家が議院よ出頭するでハ有るまいに。でも餘り世間体が…………見とも無くても搆ハつしやるな、どんな家に居ても夢野實は矢はり夢野實サ、ダガ左右なつたら奇麗な家に引移しませうよ、ハヽヽヽ

〇第四十八回

今度〇〇選擧區に於て夢野が向ふに立つたる候補の競爭者は慢心黨の其中にて去るものありと聞えたる曾莊堅內と云ふ法律家なり抑も此區は數年前より慢心黨りの多數を占め既に先度の撰擧には此の曾莊堅內が大多數にて代議士に擧られたるに付き改選の今日にても猶再選を得んと頻に選擧人の間を周旋したれば夢野に取つては侮るべからざる競爭者にてありぬ此外に法主黨またハ風潮黨よりも各々手を附たれど是等は少數にて迚も曾莊に敵する程の力なければ曾莊が再選ハ大丈夫なりと當人ハ勿論慢心黨の人々ハ安心して〇〇撰擧區ハ味方の領分なりと勘定に入れたる所に思ひ掛なく選擧期日の二週間ほど前に至りて區內選擧人の老輩數名が連署して指名者となり夢野實を候補と致す旨を掲示したり。是を見て慢心黨の驚ハ一方ならずスハヤ味方の一大事こそ出來つたるなれ彼の夢野と云ふ奴ハ夢の樣なる事ばかり書たり言たりして浮世を馬鹿にして其日を送り政治の事にハ念を斷たる變人なりと思ひたるに何なる風の吹廻しで代議士に成んとは思ひ立つたるか、殊によつたら內閣の手から勸め込まれて法主黨の候補に成つたるには非ざるか、イヤ〱彼奴ハ先年の失敗に懲て其以來は左樣な關係は全く無い樣子、それに指名者の連署を見玉へ法主黨もあれバ風潮黨もあり又わが慢心黨の爲に盡力したる者もあつて敢て一黨の相談に出たるで無い事ハ知れて居る、扨は夢野が候補は黨派の力に依らずして全く已が一個の獨立で選擧に現れ出たるよナ、彼奴は變に名望があつて年輩は好し夫れに口が達者で筆が立つてサアと云つたら酷い技倆を出す漢なれば此上も無い强敵ぞや中々油斷すべきに非ずと慢心黨は評議に評議を盡して新聞を利用し遊說を試みて只管に自黨の功能を並べ夫には曾莊堅內を代議士に再選せざる可らずと說立て果は夢野が如き曖昧主義で政治の何たるを知ら

ざる者を選擧するは得策にあらずと頻に夢野を誹謗して專ら其選擧を妨ぐるに他事なかりき

夢野を候補に指名したる老輩は此の狀況を見て大ふ氣を揉み慢心黨の奴原が斯る策略を用ゆるが奇怪なる我方にても傍觀すへき場合にあらず、誰は懇意の新聞社に謀つて此方の加勢を賴め、誰は夢野贔屓の演說して區內の人氣を引立てよ、誰々は引受を定め選擧人を巡回して投票の事を依賴せよ、此の選擧に負を取つては夢野先生は兎もあれ角もあれ我々指名者の名折なるが、老輩の顏が汚れるが、入用が掛るなら他人には迷惑を懸けぬ我々だけで負擔せう、幸ひ來月一日ハ鎭守の祭禮選擧當日の三日前なれば祭禮の入費を我々が半分出すから今年ハ立派にせいと若衆を煽動て人氣を取り祭禮の時には夢野先生を輿に載せて舁ぎ出しお神輿と一所に廻らせ樣か。ヨカらう〳〵併し夢野先生を載ると神主の輿が無くなるがどう仕やう。ナニ神主は人力でも宜しい。デモさうすると夢野先生が神主になつた樣に見えて可笑からう。夫なら馬車に載せて警固の眞先に立たせ其後から獅子頭を出して木遣を附やうか。木遣ならイッツ吉原の女連中を入れたが目に立て奇麗だぜ。迚もの事に吉原の女俄も一本くつ附てハどうだらうと埒も無い相談、我々がさう極ても當人の夢野先生が何とあらうか聞た上の事に仕やうと指名者の老輩より其旨を夢野に話したるに夢野は哈々と打笑ひ、慢心黨が何と騷がうとも曾莊堅內がどんな小刀細工を仕やうとも打遣て置き玉へ狂に鬪へは此方までが狂になる、先で何を工まうが勝手にさせて置が宜らう夫に負まいと騷いでは餘り大人氣ないマア〳〵余に任せて置なせー貴君がたは徐々に談合して余が選擧の演說をする時に選擧人が申合せて聽ふ來る樣に勸めて下されば夫で澤山、其の演說で余に投票せぬなら詰り余の說に服さぬ人だから仕方が無い余が此の選擧區內の多數に用ひられぬと明らめる分のこと別に貴君が

たの顔に掛ると云ふ次第は御座るまい、ソンナに氣を揉まずとも落付てお出なさいと事も無げに諭したれバ老輩の指名者ハ何だか安心ならぬ様だとハ思ひながら詮方なく夢野が言ふに任せて選擧演説の時をぞ待たりける

先生ゝゝ昨夜の様子をお聞なすつたかと問ハれて夢野ハ平氣な顔で、イヤ何も聞かぬ。何も聞かぬでハ往ませんぜ慢心黨ハ十日ばかり前から支度して昨日ハ朝まだきに大勢の選擧人が打連れて旗を立たり音樂を入れたりして行列を立て選擧區内を練歩行其旗にハ曾莊が名を書たり又我黨に味方せよと云ふ様な語が書て御座つたが右の行列が鎭守の社段で晝休みの時に辯士が出て今晩ハ曾莊堅内殿が大切なる演説が有るから聽に來いと云ふ口上を言ひました、夫から昨晩ハ學校の教場を奇麗に飾り公衆の集るを合圖に選擧の世話人が曾莊再選の趣意を演べ畢ると曾莊が高座に上つて凡そ二時間ほど大きな聲で演

説をしましたが其中に先生の事を當擦つて彼ハ戯作者だ小説や芝居の事ハ少しハ知つて居やうがナンノ政治の事を知るものか彼が議院に出たら演劇改良小説矯正の役にハ立つだらうが其外ハ覺束ないと散々に愚弄して聽者も咄と笑ひました誠に奇怪至極の奴で……と怒りつゝ物語るに夢野ハ笑ひ出して、ソウ腹を立つてハ困る子宜しい〳〵戯作者か政治家か明晩の演説で分るから御安心なセーと慰めたり

扨て夢野が選擧演説の當日にハ選擧人ハ云ふに及ばず高名なる夢野實が政治上に付て如何なる趣意を懐いて居るか聞て見んと敵も味方も八方より集ひ來て左しも廣き會場も刻限前にハ立錐の地もなく芝居ならバ大入客留と云ふ景色なり。刻限になつたれば夢野ハ静々と演壇に上りたるに平日の蓬頭粗服に打て變り髪ハ清らかに衣服ハ黒羅紗のコートを着し聽衆に一禮したる容貌ハ威厳もあり愛嬌もあつて

天晴の政治家と見えたり、一禮の後に先づ聽衆の來臨を謝し次におのれ六七年來ハ暫く志を政治に斷ち徐に世態の變遷するを見たりしが今また再び政治境界に身を置へしと決心したる次第を述べ、おのれハ政治黨派に加入するものに非ざれハ敢て一派の政略に偏する事なく專ら國家の利益を公平に謀るべき所存なりと時勢の進運を論じ施政の方向を議して政治家たる者ハ飽までも公平の志を以て其局に當らされば自由も幸福も國權も國利も共に其成功を期すべからざる旨を説き凡そ三時間ばかりの永き演説も聽衆をして猶その短きを覺えしめ、斯ても諸君ハ余を以て戯作者なりとて余が説を信ぜずば諸君の自由に任せんと云ひて演壇を下つたるに拍手喝采鳴も止まず敵も味方も我を忘れて其卓見に感服したり

果して夢野が豫期せし如く此の一場の演説ハ直に勝敗の運を定め夢野ハ大多數の投票にて選擧せられ東京選擧の代議士とハ成りにけり

○第四十九回

却說清水ハ乙女が義氣を無にせんハ宜しからずと夢野が達て勸めたるに任せ不本意ながらも同人より七千圓の公債證書を受取しが議員を辭したる後ハ專ら著述の業に心を寄せ毎日筆硯を友として他事なかりしかども著述の料に得たる丈の收入にてハ中々暮し向に引足らざるに付き止むを得ず右の資本に手を附けて心細くも其日を送りける。夫にハ打て變つて乙女ハ東京座に出勤の初より殊の外の評判を取

り僅かに二三回を勤め[illegible]にて今ハ立お山の座に居れり太夫く
と持囃され相應の給料[illegible]すれども深く心に思ふ仔細のありけれ
バ家内の暮し向ハ質素[illegible]し餘あれば其となく清水に預け密に見
續ぐことの手段とぞ成[illegible]ける左れハ自分の手許にハ常に餘分の
貯へも無く漸く暮を立[illegible]ふ今度座主の勸に由り愈々女座頭の廣
を表面に成す事とハなり[illegible]座に於てハ男女兩優とも各座頭を置き
狂言の筋合によつてハ女[illegible]が其座の俳優長たる時もありと知るべ
し右の廣に付てハ贈もの[illegible]の仕着その外の失費に多分の入用もか
ゝれば乙女ハ據なく給金[illegible]借として貳千圓を座主より借受けて派
手やかなる座頭廣を執行ひたれば雲野通路の名ハ益々世上の愛顧す
る所とはなりぬ然るに甘鯛男爵ハ五十を越たる年輩にて在りながら
先つ頃紅葉舘にて乙女が素顔を見てしより戀慕の情に堪へ難く何に
もして心の丈を打明て口說き手活の花となさんものをと種々に思を

凝らしたれども別に上策も無ければ無二の朋友たる町替博士に相談
して其智惠を假りたるに此の博士ハ文學ハ二の次にて斯る策略にハ
最も博學なりと見えて其には個樣〳〵と秘計を授け其運び方をも手
傳ひたれバ甘鯛ハ町替が策を用ひ東京座に向つて相應の貸出しをな
し忽ちに東京座第一等の金主とはなれり

玆は築地邊の或る割烹店の奧座敷なるが相伴の人々を暫く遠け東京
座の座主は乙女と差向ひにて、時に太夫私が口からハ甚だ以て言ひ出
し惡い話しだが實は困り切つて心底に任せぬから據なく申出すが、太
夫も知て居さつしやるアノ甘鯛樣が予太夫に酷く執心で是非とも手
に入れ度と町替さんを以て內々私への賴み、最初は戲談だと思つて宜
い加減に接對て居た所が戲談どころか眞劍も眞劍だつこん眞味の掛
合サ、所で私が其ハ當人へ直にお掛合が宜しからう私が入つては却て
不都合で御座りますと体よく斷つたるに、否々直では迚も當人が納

得しない既に何奴根伯と云ひ鼻鬚長者と云ひゐらい恥を搔た程なれバ貴公を頼むの外なしと延引ならぬ取持の依頼假初にも座主たる私に色事の取持を頼むとハ餘り人を見下げた沙汰なれバ刎附やうとハ思つたが爰に一ッの難儀と云ふは太夫も薄々承知の通り今度劇場の修繕から仕入に掛けて甘鯛樣より借入たる金子ハ莫大の高であるゆ若し此の取持を斷はつたなら直に其貸金催促と出て來るは推量ばかりか口裏に顯はれて居る次第ツゥと知つたら借るはづでは無かつたに今更後悔しても追付かぬ仕宜なれバ太夫どふぞ私を助くると思つて否でも有らふが玆へ一番目を眠つて甘鯛樣の言ふ事を聽て呉れまいかと流石に酸いも甘いも知り拔たる座主が事を分けたる頼なれば乙女も眞逆に木で鼻を括つた樣なる挨拶も出來ず暫し無言で居たりしが漸あつて外ならぬ太夫元さん(座主の呼唱)のお頼み大抵の事なら諾と申したうハ御座いますが妾にハ御存の通清水潔と申す婚約の男

も御座りますれば是ぞつかりハ……。聞かれぬと云ふハ尤も千萬だが折入ての頼と云ふハ其所のこと、成ほど婚約した上ハ夫に相違なからうが未だ表向に婚禮したと云ふでハ無し一旦甘鯛樣のお世話になつて宜い時分に足を洗つたとて別に貞女の操が穢れると云ふ理窟も無さそうに思ハるゝ予、さうさへなれば私もお蔭で助かり太夫の都合も惡くハ有るまい申さぞ三方四方の治りハ太夫の胸一ッ、コンナ事を座主の口から言出すハ實に身を斬らるゝよりつらいが太夫私が心を察して下つせへ。ツリャお察し申ますが此事ばかりハ太夫元さん堪忍して下さいましと乙女が動かぬ体を見て座主ハ少しむつとして顏色を變へ、ソンナラ太夫私が是程まで事を分けて頼んでも決して聽かぬと云ふのか。ハイお氣の毒ながら是ばかりハ……。ヨイ〳〵聽かぬと云へば夫迄の事無理に聽て貰はうとハ頼ませんがマアよく物の道理を考へて見さつせー斯う一ッ鍋のものを食つて一所に居ればお互に

少しハ情愛が無くてハ附合て居られねーぢや無か、自分の都合が宜けりや座主がどの樣な難義を仕やうが搆ハないと云ふハ餘まり薄情だぜ、ソリヤ太夫の藝が勝れて居るからでハ有らうが忘れも仕まい去年の秋あの夢野さんが來て是々の譯だから東京座に使つて呉いと達つての賴み、宜しう御座ると請合つて一座の不承知をも取り和め往なりに附出に据たのハ恩に着せるぢや無いが私の信切、それから雲野通路と忽ち世間に評判されたのも太夫眞ざら卿の腕ばかりでも有るまいかと思はるゝぜ其が嘘か眞かマア他の者に聽て御覽じろ皆が私が無理とも言ふまいよ、是位に私の方でハ太夫の爲にハ影になり日向になつて氣を揉んで居るに太夫の方でハ私が困らうが困るまいが勝手にせいとハ隨分酷ひ話だらうぜ。太夫元さんツウ云れて見ると妾がおまへさんに不實なやうに見えますが何も不實を仕やうと云ふ料見ハ少しも御座いません太夫元さんの爲ならばサアと云ふ時には假ひ給金が渡らなくつても半拂でも体の續くだけハ舞臺を勤め是までの御恩を報じやうと兼て思つて居ますれど色氣の事ハ夫とハ違ひますから何と仰しやつても隨へません。又それを聽かぬからつて妾ハおまへさんに不實になるとハ思ひません。モウ澤山だ同じ事を度々聞にも及ばぬツウ太夫が他人向ふすればお氣の毒だか私も是から他人向で話しませう、只今も云ふ通り明日にも私が甘鯛さまへ往て扨箇樣ゝゝで雲野通路ハどふあつても言ふ事を聽ませぬとお斷りを申たらアノ意地の惡い甘鯛樣失平がへしに貸金の事に引掛り期限が切れた證文なれば直に勸解に持出して私を困らせるに違ひなからう、夫も借たものゝ催促に遇ふ事だから仕方が無とした所がツウなればバ太夫を此まゝ私の座に置てハ益々甘鯛樣の勢が強くなるゆゑ否でも外へ出て貰ハねば成らぬ、附てハ貳千圓の貸金ハ給金前借の引當ど云ふでう證文の表面ハ尋常の貸金で爾も期限が切れてあれば元利とも耳を揃へて奇麗

に返して貰ひませう、コゥ云つたら太夫ハ私が酷い掛合をすると思はうが私もおまへが困るのを知つてハ居れどツゥして趣意を立なければ甘鯛樣の催促を寛めて貰ふ事が出來ぬ、太夫惡く思つて下さるな。ナンの惡く思ひませう太夫元さんの仰しやる事ハ一々御尤で御座いますが其貮千圓を只今と申してハ…………。出來ぬと云つて承知ハならぬ。ぢやと申して右から左に貮千圓のお金が妾に才覺の出來やう筈ハ無し何れ他の座へ頼み給金の前借をして納めませう程に夫までの所ハ御猶豫を…………他の座で前借をすると云つて何時の事だか知れないに便々とハ待れません無理でもあらうが三日の中に是非とも返して貰ひませうと延引ならぬ此座の仕宜、ハィ太夫元さんツンナラ三日の内に屹度お返し申ませう。見事おまへが…………。女でも雲野通路、太夫元さん御安心なさいまし約束は間違へませんよ

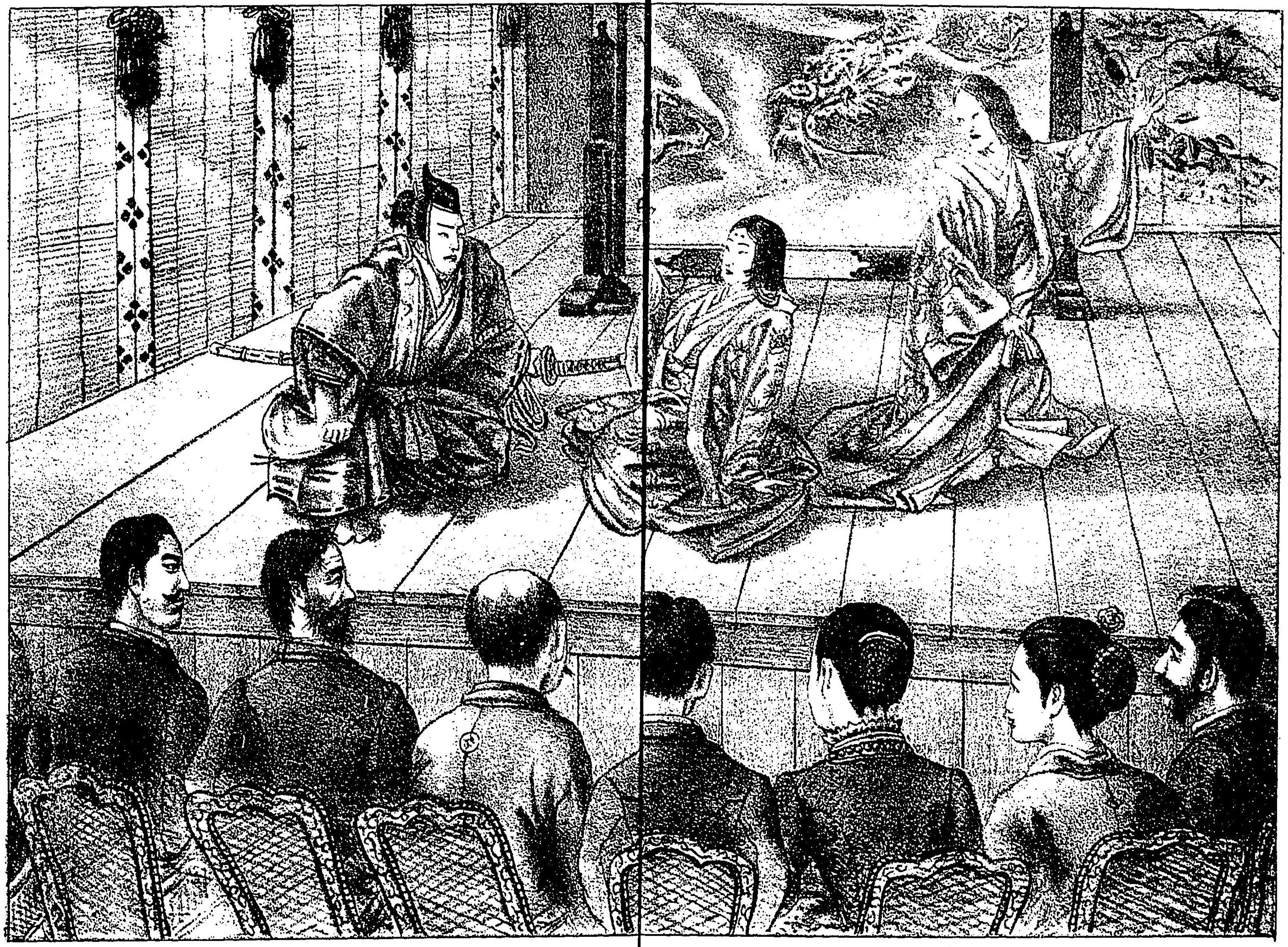
○第五十回

東京座の座主が甘鯛男爵の頼に依り據なく乙女を口說たるに乙女が一向聽入ざるより無理とハ知りながら貮千圓の前借を三日の内に返金して退座せよと迫つたるは敢て乙女を憎みての故にあらず斯せざればて甘鯛の方へ趣意が立ざる故の次第なりとハ乙女も承知の上なれば其場でハ貮千圓の金子三日の内に才覺して返しませうと立派に返答ハ仕たれども女の身で直に算段の出來やう筈もなければ乙女ハ其足にて夢野が宅へ駈付け扨個樣〻〻の仕宜なれば如何ハせんと相談したるに夢野ハ意外の事に打驚き夫は嘸々くお困ならん貮千圓の才覺

ハ此の夢野が三日の内に仕て進ぜ樣から決して案じるに及ばぬ令孃ハ平素の通に落付てお出なさい併し僕の方から沙汰をする迄ハ他へ話ハ無用ぞと十分に請合たれば乙女ハ少しハ安心して歸つたり。夢野ハ請合ハ請合つたれど貳千圓の貯ある身上ならねバ巣鴨伯爵の許に赴き事情を打明けて話たるに巣鴨ハ固より義俠の貴族りの上に伯爵夫人ハ清水も乙女もともに懇意の事なれバ傍より口を添へ巣鴨ハ貳千圓を貸すべしと承諾したり。夢野ハ早速に承諾ありしを謝し然らば明日にも證書を持參して拜借すべしと約して巣鴨が邸を出で早く乙女に遇て安心させんと急ぎ歸りける途中にハタと行逢たるハ食客の書生なり。書生ハ遽しく車を下りて夢野に向ひ先生只今〇〇公より御使が書狀を持て參られましたが其御使が歸ると直に後から東京座の座主が參つて是非とも即刻御目に懸り度い事がある御出先が知れるなら直に迎に往て呉いと申すをで御座いますから………。フーして座主ハ家に待て居るか。左樣お歸りを待て居ます。ソンナラ貴樣ハ其車で直に雲野が所へ往て太夫に遇ひ夢野が少し考へ當つたる仔細もあればバ明日の朝まで誰が來ても面會するな成るべくハ家ふも居ない方が宜しい尤も出先ハ余だけにハ云ふ樣に留守宅へ申付けて置けと云へと命じ名刺を取出し一寸りの趣を書て書生をバ乙女の許へと遣したり

夢野が宅にハ先程より來て待受けたる東京座主が今しも夢野が歸り來りしを見て挨拶もソコ〳〵にて用談を初め時に先生の所へも〇〇公から定めて御使が參つたで御座いませうが今度〇〇公にハ新築落成に付き恐多くも皇后宮の行啓をお願ひに相成り既に御日限も仰出さるゝ事に御治定とのを、右に付き行啓の節にハ御慰に御作の渡邊橋供養で通路の袈裟御前を御覧に入れ度から諸事引受かたを申付る尤も夢野氏へハ此方より使者を以て篤と依賴いたし置から萬事同氏の

差圖を受くる樣にとの事で御座いますと云ふに夢野は扨は〇〇公の使者は其事なるべしとて書狀を披て見たるに果して座主が申したる口上の通にて願くハ今宵御入來下され度もし御差支とあらバ明朝家令を差出すべしとの趣なり。夢野ハ此の書狀を座主に示し、何さま是ハ結搆の事ぢや拙作を御覽に入れ奉ること此上も無い榮譽なれバ固より承知いたし舞臺の外の事ども及バずながら差圖いたさうから貴公も直にお受するが宜い。勿論お受ハ仕る積で御座いますが困つた事ハ雲野太夫が何と申ませうか……と云ふを半分聞て夢野ハヽヽアあれだナと覺つたれど故と素知らぬ顏にて、ナンノ通路に不承知ハあるまい止ごと無きあたりの御上覽に供ゆるハ藝人の譽れ有り難がるに相違ないワ。所が昨今少々私と太夫の間に雙方の言掛りから、イヤ東京座にハ出勤させぬ、オー出勤せぬと云ふ樣な悶着が御座いまするので……大抵な悶着なら雙方で折合ひ通路を出勤さするが宜ちや無いか。



イヤ、私の方でハ是非頼んでもと存しますが太夫が折合ますまいと思はれます。座主となり太夫となつて互に舞臺を背負てるからにハ少しハ氣に喰ハぬ事があつても辛抱せにや成らぬものサ貴公の方で折合はうと云ふに通路が折合ハぬと云ふハ無い筈それを彼是と云ふならモナンノ通路ばかりが女形ぢや無し外の者を使つてさせるが宜い。トも存じますが○○公よりの仰にハ雲野通路の藝道ハ申すに及ばず其身の素性まで實ハ御所でも評判が高いに依て通路が出なくつて肝腎の見榮が無いから愈々通路差支とあるならば演劇御覽も寧ろ御沙汰止に成るであらうとの趣で御座います、夫に付ましてハ恐入ますが太夫を先生の方へ一應お呼よせ下すつて大夫と座主との悶着ハ都て水に流して仕舞へと御利解を願ひたう御座いますが……。イヤ利解をするは譯も無い事だが一体座主が折合うと云ふのに俳優が折合はぬと强情を張るは宜く無い癖だ通路が今の分際て其な癖が附ては將來が

案じられるまた貴公も丸で向ふの言ふ通になるは詰らぬぢや無いか。併し其悶着の原由と云ふが劇場外の事で……。ソンナラ猶以て余には口出しが出來ぬ元々彼孃を引出して貴公の座に入れたが余だから自然立入て偏頗ふなつては相濟まん、貴公直に話を附け其上でお出なさい愈々袈裟を勤むると極つたら後ハ御相談で萬事取極めやうと取つても附ざる夢野が返詞に座主ハ詮すべなく暇を告げて乙女が方へと赴きたり

乙女ハ夢野が使の口上を聞き是にハ定めて仔細ある事ならん憖じひ家に居て留守を使ふも面倒なりと思ひたれば清水が濱町の宅を音信れたるに清水ハ乙女に向ひ此度の○○公邸で御上覽演劇の稽古ハ如何と問ひたるに乙女ハ全く知らざる事ゆゑ其旨を答へしかば清水ハ云々の御荒增にて實ハ○○公も卿の事を御存じて畏きあたりの御聽にも内々達したるに付き橋供養御上覽とハ仰出されたる由なれば一身の譽れ天ばれ勤めて面目を施されよと勸むるに今ハ乙女も隱すに由なく斯々の仔細あれば出勤ハ出來ずと打明したり。清水ハ且ハ驚き且ハ怒りしが机の引出しより銀行の小切手帳を取出し貳千圓の振出切手を書き調印して乙女に渡し、サア其貳千圓ハ即ち此にある卿が厚意で見續いでくれた七千圓に其外の預り金みんな銀行に入れ置き少々ハ遣ひ減らしたが此通りマダ五千圓ハある程に夢野ふ心配掛るに及ばぬ直に座主へ返金して其上で立派に出勤するが善い。ソンならさうと話が極り乙女ハ初めて安堵の思をなせり

翌朝ふなれば夢野ハ乙女の許を音信て面會したるに案の如く東京座主ハ昨晩より四五度も來りし趣き夢野ハ貳千圓を巣鴨より借受る相談にしたれば證文をも云ふふ乙女は其金子は淸水が手許より出して斯く用意したりと語りたれバ夫は猶更好かつたと云ふ處に座主ハ息せき來つて乙女に御上覽出勤の事を申入たるに乙女は落附たる体に

て先づ厚く是までの禮を述べて貳千圓の金子を座主に返し證文を返し呉よと云ふに座主ハ其事は後にして出勤の事を承知してと頼めど乙女は更に肯ぜず金子の落着を附けぬ内は演劇の事は聞かぬと云ふに付き座主も止むを得ず其意に從ひ金子を受取り返り證書を渡し扨それより話に及びたるに乙女ハ此出勤は御免を蒙りたし強て出勤せば甘鯛の催促を招き却て座主の爲に不都合ならんと諾ふ樣子もなかりき。折から乙女が許へ女官○○夫人より手紙到來したり其文意は此度○○公の邸にて演劇御上覽あるは全く御身が貞節の操をば忝なくも御感あらせ玉ひての御事なれば當日ハ一しほ伎倆を顯し下との趣なり。乙女ハ此手紙を座主に見せ此通の次第なれば出勤は致したけれど甘鯛どのゝ腹だちから座主の迷惑を重ぬるは本意ならねば出勤を思ひ止まり其譯を細々と手紙に認め女官まで申上べしと思込んだる景色。サアさう成つては大變ことに寄たら甘鯛どのゝ身の上に懸らうも知れぬドウカ勘辨してと座主は手を摺て頼めども中々聞入るべしとも見えず。夢野ハ初より更に口を出さゞりしが座主が難義の体を見て、左あらば甘鯛が戀の叶ハぬ遺恨を含んで座主を苦しめまいと云ふ誓言を立たら乙女さん出勤するかと問ひたるに乙女も左樣になれバ出勤せうと返答したり、夫れならば僕が甘鯛に掛合はうと夢野が引受けて談じたるに甘鯛ハびつくりして若も其樣な事を通路より女官に文通されては一世の大事と色を青くし聲を震ハして只管頼入たれば夢野は其趣を乙女と座主とに知らせ愈々出勤と定まり座主より○○公へ其旨を答へ乙女は出勤の支度に取掛つたる處に清水は來つて今朝召狀到來に付き出頭いたしたるに文學博士及び法學博士の學位を授けられ兼ては今度歷史考證を著述したる功を以て學士會院の列に選バれ年金を賜はる旨の恩命ありと吹聽したれば喜に喜を重ねたり。乙女もまた其のち帝室保護劇場の座頭に擧られ音樂學校の教

師に任ぜられて夫より婚禮の式を行ひ夫婦なか善く家榮えたりとぞ。
此にてもしやの夢は覺にける

増訂もしや草紙終

櫻癡居士ミづから此草紙を増訂し畢り筆を擲ち大欠して云くァ、長い〳〵長い夢であつた自分の戯著を自分で校正してさへ時々居睡が出る位なれば讀者には嘸や睡氣が出る事であらう新聞の上で散々退屈させた其上に又候ふ一册に纒めて出版し退屈をさせ樣とハ去とハ餘り手酷いと讀者の愚癡も候ふべきが原來人間の生涯ハ一大夢なりと承ハる其一大夢の少しの間に纔ばかりの此草紙讀てお笑なさらうとも讀あきてお睡りあらうとも差引左までの損得も候まじ殊によつたら目の當りまだ怖ろしい正夢をバもしや見てハおハさぬかと一寸おたづね申度と云ハうとハ思つたが差扣へて居士ハお尋ね不申候

明治二十一年十一月十八日印刷
仝　年仝月廿二日出版

版權所有

定價金七拾錢

著作者　東京府平民　福地源一郎
東京下谷區下谷茅町二丁目十六番地

發行者　東京府平民　文海堂　石塚德次郎
東京麹町區麹町三丁目十九番地

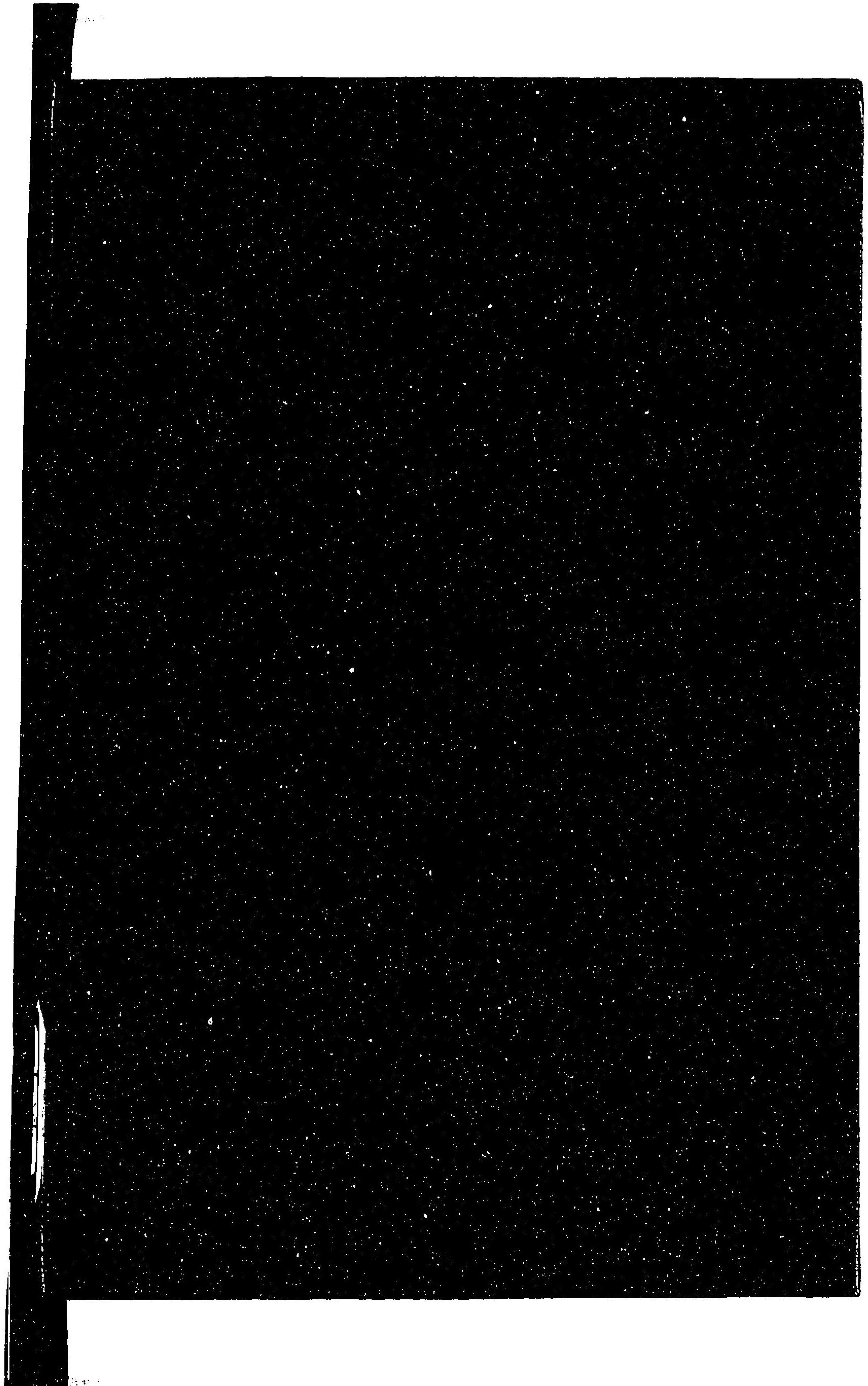
印刷者　東京府平民　製紙分社　廣瀨安七
東京日本橋區兜町一番地

發行取扱所　日報社
東京京橋區尾張町一丁目一番地

全國專賣書肆

東京日本橋區通一丁目　大倉孫兵衛
仝　仝三丁目　丸善書店
仝　仝四丁目　春陽堂
仝　仝鹽町　中央堂
仝　室町三丁目　榮泉社
仝　十軒店　坂上半七
仝　本石町二丁目　上田屋榮三郎
仝　若松町　三河屋友吉
仝　京橋區銀座四丁目　博聞社
仝　南紺屋町　顏玉堂
仝　南傳馬町　吉川半七
仝　神田區表神保町　中西屋邦太
仝　裏神保町　三省堂
仝　雉子町　團々社
橫濱辨天通四丁目　丸善支店
千葉東金岩崎　能勢嘉衛門

大坂府心齋橋筋一丁目　松村九兵衛
仝　南久寶寺町四丁目　前川善兵衛
仝　北久太郎町四丁目　柳原喜兵衛
仝　北久寶寺町角　三木佐助
仝　備後町四丁目　梅原龜七
京都府河原町二條下ル　大黒屋書店
名古屋本町三丁目　川瀨代助
肥前佐賀向山町　河内莊助
陸前仙臺國分町　高藤書店
信州善光寺大門前　西澤善太郎
上州前橋本町　喚乎堂書店
埼玉鴻巣宿　長島爲一郎
函館末廣町　魁文社
熊本新二丁目　長崎次郎
越後長岡　目黒十郎



913.6
H821m
(th)

Ⓜ

095551−000−3

913. 6−H821m (th)

もしや草紙（増訂）

福地　桜痴／著

M21

DBQ−3251

I, 30 64